



「津田サマー体験学習」に参加してきました！

7月24日～26日、あいきょうの森、南知多グリーンパレイで、津田スポーツクラブの夏休み恒例の野外学習イベント「津田サマー体験学習」に実習の一環として参加しました。事前学習として、この3ヶ月間、野外教育の定義、組織の在り方、担当の役割、インストラクターとして大切なこと、リスクマネジメント、学生担当レクリエーションプログラムなど学んで準備してきました。7月上旬のキャンプ実習ではプレキャンプと位置づけ、仲間に参加者に見立てデモンストレーションも行いました。当日は、BBQ、川遊び、室内レクリエーション、アスレチック、プール遊びなど、多彩なプログラムで参加した子どもたちは大喜び。子どもたちから「〇〇先生!」と呼ばれ、照れながらも子どもたちの元へ走っていく学生。短い期間でしたが、貴重な体験をした学生は、指導者の卵として大きく成長することができました。



インターンシップに参加し、CADの研修を受けてきました。



就職活動の一環としてインターンシップへの参加を推奨しています。今回はコンピュータビジネス科の学生が、株式会社エイジェックに訪問してインターンシップに参加しました。CADという、コンピュータを用いて建物などの設計を行うソフトの操作方法を学びました。線、丸、四角、寸法の取り方などの基本的な操作を覚え、その後は簡単な家の間取り図の作成に挑戦しました。階段の角度やカーブなどを表現するのに苦戦しましたが、細かく寸法を取って細部までしっかりと表現することができました。これまでに経験したことのない分野に触れ、今後の就職活動や卒業研究等に活かしていけるような有意義なインターンシップとなりました。



本部・笹川スクール 三重県四日市市笹川1丁目123
大山田スクール 三重県桑名市野田5丁目3-12
桑名駅前スクール 三重県桑名市大字東方266-1

津田アクティブ イングリッシュスクール開校

本年4月、津田アクティブイングリッシュスクールが開講しました。年中～小学6年生までの園児・児童を対象とし、津田学園の5つの幼稚園内にて実施しています。外国語習得の課題は「その言語で考える」ということです。そこで当スクールでは、「英語で学ぶ」をモットーとしています。津田学園の幼稚園で英語を教えるアメリカ人講師の指導のもと、言語の背景にある文化や国民性を理解し、コミュニケーションツールとしての英語力を高めることを目指しています。



津田サッカークラブ
津田テニススクール

津田こども基礎体育クラブ 津田新体操クラブ 津田バレエクラブ
津田ジュニアゴルフクラブ 津田四日市リトルシニア
津田スイミングスクール 大山田校 三重県桑名市野田5丁目3-12 TEL:0594-31-1161
桑名校 三重県桑名市大字東方266-1 TEL:0594-22-2610
四日市校 三重県四日市市久保田2丁目11-13 TEL:059-355-7771

津田スイミングスクール大山田校 リニューアル

津田スイミングスクール大山田校は、今春にリニューアルオープンしました。プール本体、プールサイド、更衣室、トイレなど非常にきれいになり、使いやすくなりました。元気に・楽しく・安全に、そして安心して健康づくりができる拠点として、子どもから大人まで年齢に応じた体力づくりや健康づくりをサポートいたします。是非ご利用ください。



津田学園から多くのみなさんが全国大会に出場しました！

【津田学園高等学校】 〈ゴルフ部〉

■全国高等学校ゴルフ選手権大会
団体の部 男子 6年連続出場
荒木義和 岡本智
金川雄斗 高橋太陽
個人の部 男子5位入賞 荒木義和

■日本ジュニアゴルフ選手権競技
男子15～17歳の部 荒木義和

■第73回国民体育大会 ゴルフ競技
少年男子 荒木義和

〈水泳部〉

■全国高校総体(インターハイ)
50m自由形・100m自由形 伊藤裕馬

■第73回国民体育大会
100m自由形 伊藤裕馬

〈剣道部〉

■全国高校総体(インターハイ)
男子個人の部 馬場佐佑

【津田学園中学校・高等学校(六年制)】 〈新体操部〉

■全国高校総体(インターハイ)
女子個人の部 戸谷百華

【津田スイミングスクール大山田校】
■全国JOCジュニアオリンピックカップ
夏季水泳競技大会

伊藤銀士 中学2年

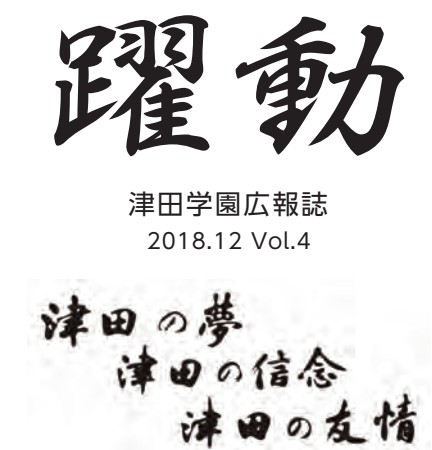
■とびうお杯全国少年少女水泳競技大会
三林翔瑠 小学6年

【津田スイミングスクール桑名校】 〈とびうお杯全国少年少女水泳競技大会〉

永戸琉偉 小学6年
佐藤陽 小学6年

【津田スイミングスクール四日市校】
■とびうお杯全国少年少女水泳競技大会

川村嶺奈 小学6年
伊藤颯 小学6年
前川優愛 小学6年
岡田一輝 小学6年
中山碧乃 小学5年



津田学園の教育 未来を見据え、躍動する教育活動。

グローバルマインドの育成!「セブ島」「ケアンズ」への海外研修を実施。

津田学園では幼稚園、小学校、中学校・高等学校(六年制)、そして高等学校(三年制)を中心に、それぞれの特徴を生かしながら、地域社会から支持される、魅力あふれた英語教育を構築するために様々な取り組みを行っています。今年度、夏休み期間を利用して高等学校(三年制)の1年生対象に「セブ島語学研修」を初めて実施しました。この研修は、英語の4技能の中で日本人が最も苦手とするスピーキングを集中的に学ぶ目的で行われました。また、中学校・高等学校(六年制)と高等学校(三年制)の2・3年生を対象に「第16回オーストラリア異文化研修」も同時期に実施しました。この2つの海外研修は、生徒たちが「生きた英語」や「異文化」と直接的にふれあい、その中での生活、習慣を体感しさまざまな人々と交流を深めることにより、あらためて自分自身を、そして日本を見つめ直すことを目的としています。そこでの新たな発見や気づきは、知的好奇心の高揚につながり、学習へのモチベーションが高まることが期待できます。なお、今回の海外研修は、今年3月に地域の方々のご尽力によって創設された「津田学園教育基金」から参加費の一部をご援助いただきました。ご支援によって多くの生徒の参加があり、生徒たちにとってたいへん意義深い体験になりました。あらためて厚くお礼申し上げます。それでは2つの海外研修の様子をレポートします。

セブ島語学研修

8月19日～29日の11日間、スピーキングを集中的に学ぶ機会として「セブ島語学研修」を実施しました。初めて実施された企画でしたが、34名の予想を超える参加がありました。研修はフィリピンを代表するセブ医科大学に付設されている語学センターで行われました。1日8時間のレッスンが行われ、5時間がネイティブ講師によるマンツーマン指導、残り3時間はグループレッスンを受講しました。レッスンは英語のみで行われるため、初めは戸惑っていた生徒もいましたが、レッスンを通して英語を話す自信をつけた生徒や、もっと勉強したいという声も多くありました。休日はフィリピンの美しい海でのシュノーケリングなど大自然を満喫しました。また、歴史的建造物の観光や孤児院ボランティアなどの活動を通して異文化交流もでき、充実した11日間を過ごすことができました。

生徒の感想

セブ島語学研修では数多くのレッスンを受けることで英語に対して抵抗がなくなり、自分の英語が伝わる嬉しさを実感しました。また実践的な英語だけでなく市内観光やアイランドホッピングツアーでその土地の歴史を学び、綺麗な海を見ることができると様々な経験ができました。 高等学校 1年 栗田虎悟郎くん



オーストラリア異文化研修

「オーストラリア異文化研修」は今回で16回目となりました。8月18日～25日の8日間、中学校・高等学校(六年制)・高等学校(三年制)生徒12名の参加がありました。ケアンズで現地の人々とのコミュニケーションを通して、英語を学ぶ必要性・重要性を感じ、グローバルマインドを深める目的で実施されました。この研修の中心は、Trinity Anglican School(通称TAS)での学校生活体験とホームステイです。この学校は幼小中高一貫教育の私立学校で、オーストラリアの一流大学へ数多く輩出している名門校です。このTASの生徒が「Buddy」(相棒)としてさまざまな案内やサポートをしてくれます。平日は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の各授業に参加します。英語だけによる授業は難しさもありますが、数学の授業は多くの生徒が理解できました。また、積極的にBuddyと溶け込み、楽しむ生徒の姿も見られました。授業が終わると、ホストファミリーの迎えて帰宅し、その後、多くの生徒は水族館やビーチ風のプール、ナイトマーケットなどに連れて行ってもらっていました。この研修で、コミュニケーションの難しさや考え方の違いなども体感しました。帰国後の感想で「人生において自分を変える大きな経験となった」など、生徒たちはとても貴重な時間を過ごすことができ、大きな成果をあげた研修でした。

生徒の感想

オーストラリアでは、自分が知っている英語で通用すると思っていましたが、最初は全く通じませんでした。ホームステイ先でも自分が言いたいことも伝わらず苦労しました。しかし、パディがゆっくりと話をしてくれ、段々と慣れてわかるようになってきました。現地の人たちは何事にもポジティブで自分も見習わなくてはと思いました。これらの体験は自分を見直す良い機会となりました。 中学校・高等学校 4年 太田雄斗くん



「津田学園教育基金」を創設

今年初めに、地域の篤志家の方々から、本学園の教育活動に関わる資金支援協力の申し出をいただき、3月に「津田学園教育基金」を創設いたしました。同基金は、本学園の特色ある教育活動をより一層推進させることを目的としております。今後より多くの関係の皆様、企業、同窓会の皆様などからのご協力を仰ぎたく存じますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

幼稚園



<http://tsudagakuen.ac.jp/yochien/>



楽しいこと・うれしいことがいっぱい!毎日がワクワク・ドキドキ!!

津田学園の歴史は笹川幼稚園(現:津田第一幼稚園)からはじまり、創立47周年を迎えました。「こころの豊かな子ども」「自分で考え、最後までがんばる子ども」「みんなと仲良くできる子ども」の教育目標のもと、歴史と伝統に培われた幼児教育を日々意欲的に展開しております。幼児期の子どもは日々目覚ましい成長が見られ、人間形成の基礎を培う大切な時期でもあります。津田学園では、一人ひとりの子どもに寄り添いながら、ご家庭との連携を大切にして子どもたちの成長を精一杯応援します。

●津田第一幼稚園

三重県四日市市笹川1丁目106-2
TEL:059-321-8836

『きのこ体操キャラバン2018』に参加しました。

きのこ体操を踊ったり、きのこのもぎ取り体験をしたりしました。

6月25日、株式会社ホクトの広報部の方々にご来園いただき、「きのこ体操キャラバン2018」のイベントを行いました。エリンギ君ときのこのお姉さんが登場して「きのこショー」を観せてくれました。きのこショーでは、さらわれた先生を助けるために、年長児が「きのこ体操」を踊ったり、きのこに関するクイズに答えたりして、きのこの知識をたくさん知ることができました。その後、全園児が「きのこのもぎ取り体験」をしました。においを嗅ぐ子や、手触り確かめる子など、きのこへの関心をもつ様子が見られました。イベントのあと、頂いたきのこを三重給食センターさんにソナーにさせていただき、おいしく食べました。きのこを食べると元気になることを知り、園児たちはおかわりをたくさんしていました。



●津田第二幼稚園

三重県四日市市笹川7丁目52
TEL:059-321-8011

『家庭教育講座』

柔道の先生から受け身や護身術を教してもらいました。

6月22日、子どもたちや保護者の安全指導として「自分の身は自分で守る!柔道に学ぶ簡単な護身術」講座を開催しました。講師には三重県柔道協会の山村幸雄氏(5段)にご来園いただき、「受け身」の取り方を教えていただきました。ケガをしないうえに安全に生活ができるようにと、前に倒れたとき、転んだ時にさっと手を出す。後ろに倒れたとき、おしりから順番に背中を床につけていき肩口までいったら両手を出して床をたたき、わかりやすく「受け身」を教えていただきました。また、保護者の方には「護身術」を指導をしていただきました。前から手をつかまれた時の離脱法や、後ろから手をつかまれた時、相手を制する術などを教えていただきました。事件・事故・怪我から子どもを守るためには、幼稚園、保護者、地域の協力をより強いものとし、親子ともに「自分の身は自分で守る」意識の大切さを感じました。



●津田三滝幼稚園

三重県四日市市川島町6513
TEL:059-321-8311

『芋ほり遠足・みかん狩り』

秋の自然に親しみ、収穫の喜びを体験しました。

自然とふれあい、自然を肌で感じてほしいとの願いから、様々な食物を子どもたちと一緒に収穫しています。10月16日、川島町改良区にある芋畑に行きました。土の匂いや感触を感じながらお芋を掘る体験は、子どもたちにとって楽しい行事のひとつです。芋を傷つけないように、周りの土をどかしていくと「せんせい、芋がみえてきたー」と畑のあちらこちらから子どもたちの声が聞こえてきました。11月12日は曾井町にみかん狩りに行きました。みかん畑に着くと、「たくさんのみかんがなっているね」「美味しそうだね」と縦割りのペアのお友だち同士、みかんを収穫してその場で食べました。収穫したみかんをその場で食べる経験はあまりできないので、もぎたてほやほや、お友だちと一緒に食べるみかんの味は格別だったようで、おかわりする子もいました。



●津田桑名幼稚園

三重県桑名市大字東方266-1
TEL:0594-22-2611

☺ 水まつり体験

水でダイナミックに遊びました。

7月31日、夏期保育で「水まつり」を開催しました。日頃の水遊びをよりパワーアップして、この日はダイナミックに遊べるようたくさんの特設コーナーを設けました。ボディペイントで友だちと身体に絵を描きあったり、水鉄砲での当てをしたり、大きく膨らむシャボン玉遊びや、水風船投げをしたりしました。砂場は泥んこプールに大変身!さまざまな感触を楽しみながら、それぞれが思い思いのコーナーでひと時を過ごしました。子どもたちや先生も笑顔でいっぱいでした。わくわくしたりドキドキしたり心を動かす体験は幼児期にとっても大切なことです。水の大切さや危険性についても学びながら、いろんな遊びに触れることができた楽しいお祭りになりました。



●津田大山田幼稚園

三重県桑名市野田5丁目3-12
TEL:0594-31-8182

☺ 自然体験

学園キャンパス内は自然がいっぱいです。

今年の夏は園庭の木や園舎の壁に、ミヤマクワガタやノコギリクワガタ、コクワガタなどがたくさん飛んできて、捕まえることができました。子どもたちは樹液のついたくぬぎの木を発見すると、クワガタムシを一生懸命に探す姿が見られました。捕まえたクワガタムシは、飼育ケースに入れてエサをあげて観察したり、触ったりして、大切に育て、いろんな発見をすることができました。昨年の秋から育ててきたカブトムシの幼虫の成長を見守ってきた年長組。6月26日には、津田学園小学校の勝野教頭による出前授業が行われました。幼虫から成虫になるまでの最終段階の説明を聞き、成虫を手にとりて感触を感じていました。飼育方法についても教えてもらい、子どもたちは興味津々で目を輝かせていました。今年生まれた卵は来年の年長児に受け継がれます。生き物に愛情を持ち、育てる喜びを感じ、命の大切さに気づいて欲しいと願っています。



移動動物園が津田学園に来てくれました。

「いちご動物園」(移動動物園)が10月19日には津田キッズスクエアにおいて、津田第一幼稚園・津田第二幼稚園・津田三滝幼稚園の園児に、10月26日には津田大山田幼稚園に来園し、津田桑名幼稚園・津田大山田幼稚園の園児に会いに来てくれました。ヤギ、羊、ロバ、犬、カメ、モルモット、ウサギなど、あっとい間にグラウンドや園庭が動物園になりました。ドキドキしながらヤギや羊に触ったり、お友だちとウサギを優しく抱っこしたり、ロバにニンジンあげたり、犬の「はなちゃん」と一緒にかけっこ競争をしたりと、楽しい一日となりました。普段、動物園でしか見られない動物たちを間近に見られて貴重な体験となりました。たくさんの動物たちとのふれあいは、動物の不思議、動物の生態を知れるとともに、子どもたちの感性を磨き、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりする心を育みます。



子育て支援「いちごクラブ」 親子で触れあいましょう ～新聞遊び～

津田学園では、就学前のお子さまとお母さまを対象に子育て支援の一環として「いちごクラブ」を実施しています。6月には、お母さんと一緒に新聞紙を使った遊びをしました。子どもたちは小さな手で一生懸命に工夫をし、新聞紙を素敵なスカートやマントにしたり、丸めてボールにしたりしていました。新聞紙の破れる音や紙の感触を楽しんだり、クルクル回ったり、ひらひらと舞う新聞紙を見たりして大喜びでした。最後は音楽にあわせて新聞紙を紙吹雪にして遊びました。このような指先を使う遊びは、脳にも刺激を与え脳の発達を促すとともに想像力も育れます。ご家庭でも身近な素材を使って遊べるように情報提供も行っています。「いちごクラブ」はお母さんの出会いや交流の場でもあります。同年齢のお母さん同士の交流を大切にして、楽しく子育てが出来る場をこれからも提供していきます。



TOPICS

津田ナーサリースクール(職員のための保育施設)新設

4月、大山田キャンパス内に「津田ナーサリースクール」を開所いたしました。この施設は、津田学園の職員の子どもを預かるための保育施設で、1歳児から5歳児を預けることができます。本学園の職員が、安心して仕事や育児が出来る、働く環境づくりの一環でオープンしたものです。経験を積んだ教員が、長く教育に携わることで、子どもたちへの教育力向上に繋がっていくことを期待しています



津田学園小学校

http://tsudagakuen.ac.jp/shougaku/
三重県桑名市野田5丁目3-12 TEL:0594-31-9311



「未来を拓く学力と自他を愛する人間性」の育成

津田学園小学校では、児童にとって最も重要である初等教育の時期に、実体験を重視した多彩な教育を取り入れています。様々な学習を通じ、学びの幅を広げ、児童の好奇心や探求心を深め、感受性を育みます。多彩な教育プログラムにより、「未来を拓く学力と自他を愛する人間性」の育成を目指し、教育活動に邁進していきます。

◎「あすチャレ!スクール」パラリンピックからの学び

パラリンピック銅メダリストの永尾嘉章さんが来校しました。

アテネパラリンピック4×400mリレー銅メダリスト、永尾嘉章さんのご指導のもと「あすチャレ!スクール」と題した体験型授業を行っていただきました。児童は実際に競技用の車椅子リレーに参加したり、競技の応援をしたりしました。永尾さんの実演を見て、そのスピードに驚き、大きな声で応援していました。その中でパラスポーツの楽しさや奥深さを理解したようです。永尾さんの「諦めない」ことについてのお話を聞き、どんな状況でも諦めないことの大切さを知ることができました。児童代表の挨拶では「精神的な強さがすごい」と思いました。」という感想や、感謝の言葉を永尾さんに伝えました。最後にアテネパラリンピックで獲得された銅メダルの実物を見せていただきました。



◎東京藝術大学美術館での津田学園小学校の実践発表

津田学園小学校での図画工作科の教育実践を発表しました。

東京藝術大学美術館において、本校の図画工作の授業の実践を発表しました。幼稚園から大学まで美術教育の流れを体感する展覧会 全国美術・教育リサーチプロジェクト2018-「美術の授業ってなんだろう?」に選出され、10月2日(火)～10月21日(日)の日程で展示されました。このプロジェクトは、多様な感性を育む「美術」においてその「授業」の具体的な内容をリサーチすることで、美術界全体の活性化に繋げることを目標としています。現在、幼稚園から現役大学生までどのような「美術の授業」が行われているのか、特に注目すべき授業はどのような内容でいかなる作品が制作されているのか、東京藝術大学美術館で展開されました。



◎国際交流

本校には世界各国から多くの方が視察に訪れます。

アメリカより数十名の方が来校されました。これは桑名市と桑名市観光協会による「桑名で学ぶ、泊まる、観る」をキャッチフレーズにした、産業観光で訪日外国人を誘致する活動の一環です。主に給食と掃除の時間を見学してもらっています。海外では自分たちの手で校舎を清掃する習慣が少なく、興味深く見学していました。また児童は学校で習った英語を駆使しながらコミュニケーションをとり、国際交流をする絶好の機会となっています。この行事は年間を通して行っています。過去にはカザフスタン・ドイツ・オランダ・イタリア・タイ・中国・韓国などの方々も来校しています。



◎文化庁「文化芸術による子供の育成事業」邦楽鑑賞会

親子で邦楽器の魅力に触れました。

東員町ひばりホールにおいて邦楽を鑑賞しました。これは本校が「本物の文化芸術にふれること」を教育活動の大きな柱としていることから、毎年一流の文化芸術団体を招いて実施しているものです。保護者の方も多数参加し、親子で鑑賞しています。今回、文化庁の「文化芸術による子供の育成事業」の一環で実施し、今年度は「オーラ」様に素晴らしい演奏をしていただきました。冒頭では演奏に使用される楽器について紹介していただき、琵琶・笙(しょう)・尺八・箏(こと)・三味線・笛・小鼓など、それぞれの音色に耳を傾け、特徴を学びました。その後、楽曲「羽衣(はごろも)」の演奏がありました。伝統楽器の音色や美しい歌声が作り出す世界観は、まるで昔話の中にタイムスリップしたかのようでした。日本の伝統楽器の魅力にふれる貴重な機会となりました。



TOPICS

NHK全国学校音楽コンクール 三重県コンクールで金賞を受賞 東海北陸ブロックコンクールで奨励賞を受賞

最後のNコンin東海北陸ブロックコンクール

部長 1さんの感想より

「出場番号5番。津田学園小学校の演奏です」あぁ、今年もやって来たと、私は思う。毎年そうだけれど、出番の前にどれだけ緊張していても舞台裏に来ると必ず緊張する。まるで、舞台裏には人を緊張させる力があるみたいに。でも、なぜかわからないけど、今まで頑張ってきた証のような気がしてなんだかしら

た。結果は奨励賞だったけど、私は後悔しない。やっぱり金賞や銀賞をとれなかったのは悔しい。けれど、3年間精一杯頑張って、本番でも自分の力をすべて出し切ったと思った。賞をとることも大切かもしれないけれど、私は「精一杯」が一番大切なんじゃないかと思う。いくら上手な学校でも本番で「精一杯」歌わなければ

賞はとれない。「精一杯」歌わずに賞をとることなど出来ない。私はそう考える。もちろん、賞をとれなかったら悔しい。賞はとりたいた。けれど、「精一杯」歌えたから、私は今年のNコン東海北陸ブロックコンクールについて一切後悔はしないことにする。私にとって小学校最後のNコンを後悔で終わらせたくないから





先行く学びが未来を拓く

2020年度の大学入試改革に向け、本校では様々な取り組みを実施しています。新しい大学入試やこれからの社会では十分な知識・技能はもちろん、主体性を持ち、多様な人々と協働しながら、変化の激しい社会を乗り越え、力強く生き抜く力が求められています。本校では中高一貫制の特性を生かし「アクティブラーニング」「英語教育」「教育ICT」など多彩な教育を展開。さらに豊かな人間性を育む「道徳教育」を重要な柱と位置づけています。六年間の学びによって社会的責任を自覚し、知・徳・体の調和のとれた人材育成に努めています。

グローバルマインド育成プログラム

今年度から始まったグローバルマインド育成プログラムの一環として、中学1年生が大阪の万博公園にある大阪英語村「Osaka English Village(OEV)」で『英語だけ環境』を体験しました。OEVは、「絵本の『アメリカ』」をテーマに、英語を楽しみながら学ぶ体験型英語教育施設です。生徒たちはいくつかのグループに分かれ、「化石発掘体験」や「ゴールドラッシュ(砂金探し)」といった体験コーナーで、英語を実際に使いながら様々なレッスンを受けました。始めは戸惑いも見られましたが、計4回のレッスンを通して積極的に参加し、楽しみながら英語を学ぶことができました。体験を通して感じた英語でのコミュニケーションの楽しさが、これからの英語学習に対するモチベーションアップにもつながりました。



「探究基礎」活動が始まりました。

今年度から高校課程の探究活動の準備講座として、中学1～3年生を対象に「探究基礎」活動が始まりました。生徒は「歴史」、「理科実験」、「英会話」、「大学数学」などの興味関心のある講座から一つ選択し、1年間かけて自分で決めたテーマにじっくりと取り組みます。生徒が主体性をもって自由にのびのびと活動し、知的好奇心や探究心を刺激して学ぶ楽しさを実感するとともに、「調べる」「まとめる」「発表する」「考察する」といった学問の基礎となる姿勢を身につけます。前期の活動発表会では、講座ごとに成果を披露しました。ポスターセッションや全員参加のゲーム形式の発表など充実した発表会となりました。



TOPICS

夾竹桃コンクールで表彰されました。

広島原子爆弾で犠牲になった動植物をテーマにした絵本「夾竹桃物語—わすれていてごめんね」の絵画・書道・読書感想文コンクール(中日新聞社後援)において、1年生の泉紗野花さんが読書感想文の部で三重県知事賞を受賞しました。8月6日に広島市内で表彰式があり、泉さんは「被害を受けたのは人間だけではなく、動物や植物も同じだったことに衝撃を受けて感想文を書いた。みんなの笑顔のために核兵器のない世界になってほしい」と語りました。

歌舞伎ワークショップを実施しました。

6月13日、中学1年生～3年生を対象に東京の劇団前進座による歌舞伎ワークショップを実施しました。ワークショップでは、まず、四つ目やみそすりといった歌舞伎独特の身体の使い方を体験しました。江戸時代から続く動き方にも関わらず、ダンスに通じる動きもあり、生徒たちは驚いていました。その後、新聞紙で作った刀を持ち、山がけ、空打ち、鬼とび、見得を切るといった立ち回りを体験しました。生徒たちは、最初は慣れない動きに苦戦する様子もありましたが、徐々に互いに呼吸を合わせて立ち回りの動きをつかんでいきました。次に、「問われて名乗るもおこがましいが・・・」という始まりで自己紹介のセリフに挑戦しました。生徒によるユニークな自己紹介発表があり、会場は大いに盛り上がりしました。11月13日の芸術鑑賞会で、劇団前進座による歌舞伎本公演を鑑賞しました。



PC一人一台端末環境ができました。

今年度入学生から全員にGoogle Chrome OSを搭載した新しいタイプのノートPC「Chromebook」と専用アプリ「G Suite for Education」を導入、「一人一台端末」環境をつくりました。従来のPCやタブレットPCと比較して安定した動作性能を持ちセキュリティ面でも安全なこの情報環境を活用して、文書作成や表計算、スライドの作成、スケジュール管理、複数の生徒・教員によるデータ同時共有や編集などといった、さまざまなことが可能となり、個々の能力発展を図りつつ協働的な活動をも行うことができます。こうした中で、生徒たちは情報端末に親しみ情報スキルを高め「自ら学ぶ姿勢」を養い能動的な学習を実践しています。



IIBCエッセイコンテストで受賞しました。

日本でTOEIC Programを実施・運営する、国際ビジネスコミュニケーション協会(IIBC)が主催する英語エッセイコンテスト「IIBCエッセイコンテスト」に応募しています。第10回のコンテストにおいて、「私を変えた身近な異文化体験」をテーマとして応募された多くの作品の中から、5年生の田中裕大くんの作品が特別賞を受賞しました。さらに、協賛団体「一般社団法人 日米協会」による審査の結果、日米協会会長賞を受賞しました。また、学校団体賞として奨励賞を受賞しました。



「新たな一歩から、確かな歩みへ」

アクティブラーニングや探究活動、教育ICTなどにも積極的に取り組み、今夏は2年後の大学入試改革を見据え、1年生を対象としたスピーキング力を伸ばすセブ島での語学研修を実施するなど、未来を見据えた教育活動を展開しています。施設・設備面ではWi-Fiの完備や、大型窓を設置し明るく風通しの良い教室への改装や津田書院(図書館)のリニューアルを進めており、学習環境を向上させています。「新たな一歩から、確かな歩み」へ津田学園高等学校はさらなる進化を続けていきます。

科学探究会が発足しました。

今年度より科学探究会が発足しました。この会は、理数分野を中心とした知識や技術を学びながら、問題演習や研究、探究活動を行ったり、その成果を校外で発表したりしていきます。また、三重県の「科学オリンピック」や全国大会の「科学の甲子園」への出場を目指しており、6月には科学オリンピックの過去問にチャレンジし、7月にはCOD測定実験、8月には神戸市で行われたSSH研究報告会を見学に行きました。そして10月21日に三重県高等学校科学オリンピック大会に出場しました。



「文化祭」を開催しました。

9月20日・21日の2日間、文化祭を実施しました。1日目は本校にて展示や発表、模擬店での食品販売などを行いました。各クラスやクラブが工夫を凝らし、この日のために準備、練習を重ねてきた成果を発表しました。2日目はNTNシティホールにて午前は公演(マジックや落語などの寄席)があり、午後は剣道部のソーラン節や太鼓の演技、ダンス同好会のダンス披露と英語スピーチ(セブ島研修報告と皇學館大学英語スピーチコンテスト出場者の発表)を行いました。今年の文化祭では、クラスTシャツコンテストや先生方の似顔絵入りの案内掲示など、新しい取り組みが見られた文化祭でした。



第71回秋季東海地区高等学校野球大会において準優勝!

10月20日、来春のセンバツ出場校の参考資料となる大会「第71回秋季東海地区高等学校野球大会」が地元三重県で開催されました。1回戦は大垣日大高校(岐阜2位)を10対3(7回コールド)、2回戦は御殿場西高校(静岡1位)を7対2、準決勝戦は中京大中京高校(愛知2位)を13対2(5回コールド)で下し決勝に駒を進めました。平成13年以来の2度目の決勝進出を果たしました。決勝では東邦高校(愛知1位)に2-10と敗れましたが17年ぶりとなる準優勝です。選手、応援が一丸となり全員野球で果たした立派な成績でした。多くの皆様に応援をいただきまして、ありがとうございました。



平成30年度入試 合格実績

昨年度、特別選抜コース2期生が卒業しました。1期生は22人中13人、2期生は14人中9人と2年連続で過半数の国公立大学合格を果たしました。また、昨年度は、特別選抜コース、特別進学コース、総合進学コースすべてのコースから国公立大学合格者を輩出しました。

国公立大学等進学実績

横浜国立大学	1名	愛知教育大学	2名	三重大学	1名
北見工業大学	1名	高知大学	1名	釧路公立大学	1名
都留文科大学	1名	島根県立大学	1名	尾道市立大学	2名
長崎県立大学	1名	防衛大学校	1名		

TOPICS

学校法人津田学園 幼稚園教諭育成奨学金制度

昨年度から始まった幼稚園教諭育成奨学生となり、四年制大学で幼児教育を学んでいます。高校三年生の進路決定のギリギリまで四大に行くか短大に行くかで迷っていましたが、担任の先生にこの奨学金制度を紹介されました。この奨学生制度が無かったら、今頃私は四大に行くことができなかったと思います。現在は、子どもにも保護者にも信頼して頂ける幼稚園教諭になれるよう日々勉強に励んでいます。

桜花学園大学 保育学部1年 鈴木紗南さん
平成29年度 特別進学コース卒